

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：17501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20520086

研究課題名（和文） 近代日本彫刻史についての総合的調査・研究

研究課題名（英文） General research on the history of Japanese modern sculpture

研究代表者

田中 修二（TANAKA SHUJI）

大分大学・教育福祉科学部・准教授

研究者番号：70336246

研究成果の概要（和文）：19 世紀後半から 20 世紀を対象に、日本で活躍した彫刻家たちとその作品、彼らが所属した団体とその展覧会の動向、およびそれらをふまえた近代日本彫刻の全体的な動向について、資料収集と調査・研究を進めた。それにより個々の作家の活動の詳細を浮かび上がらせるとともに、多角的な視点から近代日本彫刻史についての全体像を再検討し、それらの成果を『近代日本彫刻集成』全三巻やその他の論文などで公開した。

研究成果の概要（英文）：We researched on the sculptors, their groups and exhibitions from the latter half of 19th century to 20th century in Japan. On the basis of such researches, we threw their details into relief, and examined the general image of the modern Japanese sculpture from the various points of view. We made results public by the publication of “Kindai Nihon Chokoku Shusei (Corpus of Japanese Modern Sculpture)” 3 volumes and other papers.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：近代日本美術史

科研費の分科・細目：美学・美術史

キーワード：彫刻、近代日本、美術史

1. 研究開始当初の背景

近代日本彫刻史の研究は、荻原守衛、高村光雲・光太郎父子、平櫛田中、橋本平八ら特定の彫刻家たちについての個別研究は進んでいるものの、多くの彫刻家たちの活動はほ

とんど注目されないままであった。またロダンの彫刻が紹介された明治 40 年代以降に日本の「近代彫刻」が始まるという考え方が一般的であったため、江戸時代と明治期とのつながりや、明治 30 年代の動向などについて

は顧みられることは少なかった。ようやく近年、2004年に静岡県立美術館で開催された「〈彫刻〉と〈工芸〉」展など、それらの状況に焦点を当て、従来の考え方を問い直す動きが見られるようになってきた。

2. 研究の目的

研究の目的は以下のとおりである。

- (1) 19世紀後半から20世紀、とくに江戸時代末期の1850年前後から、第二次世界大戦が終わってしだいに彫刻界が落ち着きを取り戻し、新たな表現への取り組みが顕著になる1950年頃までの、約100年間を中心に、近代日本彫刻史についての多角的な視点から研究すること。
- (2) 当該時期における個々の彫刻家の活動を、できるかぎり広く研究すること。
- (3) 以上の研究により得られた成果をデータ・ベース化し、今後の研究に役立つものとする。
- (4) 以上の研究をふまえて、近代日本彫刻史の新たな全体像を多面的に提示すること。

3. 研究の方法

研究の対象とする時代の彫刻界について、次のようなテーマで研究を行なった。

- (1) 当該時期に活動した彫刻家たちについての個別的な調査・研究。
- (2) 彫刻家が所属した団体・グループ、及びそれらの展覧会についての調査・研究
- (3) 江戸時代と明治期以降の彫刻とのつながりや、仏像の修理と近代における彫刻のとらえ方の関係性、彫刻と工芸との関わりといった多角的な視点からの、近代日本における彫刻のあり方の検討。

4. 研究成果

研究代表者と研究分担者による研究の成果は、本報告書の「主な発表論文等」に記載したとおりである。

とくに、国書刊行会から出版した『近代日本彫刻集成』全3巻(2010~2013年)では、美術館学芸員等の研究協力者とともに、1850年前後から1950年頃までの日本の彫刻界の動向を詳細に研究し、今後の近代日本彫刻史研究における基礎的な参考文献となることを目指した。

また岡本太郎の彫刻についての研究など、『近代日本彫刻集成』の対象とする時代以外、

あるいは中平四郎など同書で深く取り上げられなかった彫刻家たちについての研究も、論文や口頭発表などをとおして、その成果を公表した。

そのほか研究協力者も、各自の設定した特定のテーマについて研究を進め、展覧会図録や資料集などでその成果を公表した。その主なものとして、藤井明による『岡倉天心と日本彫刻会：日本木彫の「伝統」と「革新」』展覧会図録(小平市平櫛田中彫刻美術館・井原市立田中美術館、2010年)、迫内祐司による『中村直人 彫刻の時代』展覧会図録(中村直人 彫刻の時代)展実行委員会、2012年)、齊藤祐子・篠崎未来らによる『清水多嘉示資料集I』(武蔵野美術大学彫刻学科研究室、2009年)などがある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ① 田中修二 (解説)、「no. 004 長沼守敬 老夫」「no. 037 金子九平次 C嬢の像」「no. 042 藤川勇造 詩人M」「no. 116 舟越保武 長崎26殉教者記念像」、『美術手帖』、64(967)、23, 70, 75, 167頁、2012年6月、無
- ② 田中修二、「図版三 米原雲海 清宵」、『國華』、(1400)、46-48頁、2012年6月、無
- ③ 田中修二、「あーとing 野外彫刻 人が集い息づく 「ビエンナーレ」50周年の山口・宇部」、『朝日新聞』西部版、30面、2011年8月16日、無
- ④ 篠原聰、「朴訥な首 文学者の影と像」、『ギャラリー代々木通信』、(7)、1頁、2010年、無
- ⑤ 篠崎未来・田中修二、「大分市の屋外彫刻メンテナンス活動について」、『アートマネジメント研究』、(10)、80-93頁、2009年、有
- ⑥ 田中修二、「戦前の文献にもとづく作品台帳制作と所在調査(全国調査)」、『屋外彫刻調査保存研究会会報』、(4)、66-76頁、2008年、無

[学会発表] (計6件)

- ① 田中修二、「仙台市における彫刻メンテナンスの活動について」、竹田市屋外彫刻保存研究会、2013年3月23日、大分県竹田市・西光寺

②田中修二、「『昭忠碑』の〈金鶏〉を作った人たち：彫刻家・沼田一雅を中心に」、屋外彫刻調査保存研究会「『仙台昭忠碑銅標』をめぐる」研究会・シンポジウム、2012年6月3日、仙台市・小田急仙台ビル会議室

③田中修二、「竹内久一と仏像」、屋外彫刻調査保存研究会、2012年3月4日、武蔵野美術大学鷹の台校舎

④田中修二、「『中平四郎の生きた時代——日本と西洋、彫刻が生まれる場所』、『中平四郎』展連続講演会、2011年3月6日、群馬県立館林美術館

⑤田中修二・ほか、「渡辺家に遺る渡辺長男の作品と資料の調査」、屋外彫刻調査保存研究会研究例会、2009年5月31日、武蔵野美術大学

⑥田中修二、「岡本太郎と彫刻」、『岡本太郎立体に挑む』展講演会、2008年6月7日、川崎市岡本太郎美術館

〔図書〕(計10件)

①田中修二(編著)・大坪潤子・齊藤祐子・迫内祐司・篠崎未来・篠原聰・藤井明・藤曲隆哉・本郷孝衣・本橋浩介・吉田朝子、『近代日本彫刻集成 第三巻 昭和前期編』、国書刊行会、2013年、754頁

②田中修二(編著)・大坪潤子・齊藤祐子・迫内祐司・篠崎未来・篠原聰・藤井明・藤曲隆哉・藤原由莉・本郷孝衣・本橋浩介・吉田朝子、『近代日本彫刻集成 第二巻 明治後期・大正編』、国書刊行会、2012年、616頁

③Thomas Rimer(編著)・田中修二・ほか、『Since Meiji : Perspectives on the Japanese Visual Arts, 1868-2000』、University of Hawaii Press、2011年、516頁、(「11 Sculpture」執筆、283-314頁)

④石川哲子(編著)・田中修二・ほか、『抱きしめたい！近代日本の木彫展』展覧会図録、「近代日本の木彫展」実行委員会、2011年、188頁、(コラム「色めく木彫：彫刻と彩色」執筆、90-91頁)

⑤田中修二・ほか、『朝倉文夫の世界』展覧会図録、豊後大野市・朝倉文夫記念館、2011年、50頁、(「彫刻の息づかい：朝倉文夫の「自然」」執筆、4-5頁)

⑥田中修二(編著)・大坪潤子・齊藤祐子・迫内祐司・篠崎未来・篠原聰・藤井明・藤曲隆哉・本郷孝衣・本橋浩介・吉田朝子、『近代日本彫刻集成 第一巻 幕末・明治編』、

国書刊行会、2010年、550頁

⑦田中修二監修・執筆、『銅像写真集 偉人の佛』全2冊(シリーズ・近代日本のモニュメント1)、ゆまに書房、2009年、図版篇361頁・資料篇453頁+索引12頁(『偉人の佛』とその時代)執筆、資料篇395-406頁)

⑧田中修二・ほか、『日本藝術の創跡 異文化への扉：創造の交流点(2009年度版 第14巻)』、世界文藝社、2009年、492頁(「近代彫刻における西洋と日本の出会い」執筆、252-257頁)

⑨田中修二(解説)、『近代日本アート・カタログ・コレクション第Ⅱ期彫刻篇 085 東京彫工会 第1巻』、ゆまに書房、2008年、444頁(「近代日本彫刻の記憶」執筆、435-444頁)

⑩田中修二・藤井明・ほか、『仏像インスピレーション』展覧会図録、小平市平櫛田中彫刻美術館、2008年、168頁(「仏像と近代彫刻、日本と西洋」執筆、10-16頁)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 修二(TANAKA SHUJI)

大分大学・教育福祉科学部・准教授

研究者番号：70336246

(2) 研究分担者

篠原 聰(SHINOHARA SATOSHI)

東海大学・課程資格教育センター・准教授

研究者番号：70439694

(3) 連携研究者

なし

* 主な研究協力者

大坪 潤子(OTSUBO JUNKO)

港区立港郷土資料館文化財保護調査員

／和光大学非常勤講師

齊藤 祐子(SAITO YUKO)

美術史家・芸術学博士

迫内 祐司 (SAKOUCI YUJI)
小杉放菴記念日光美術館

篠崎 未来 (SHINOZAKI MIKI)
近現代彫刻保存修復研究者

藤井 明 (FUJII AKIRA)
小平市平櫛田中彫刻美術館主査・学芸員

藤曲 隆哉 (FUJIMAGARI TAKAYA)
東京藝術大学大学院
文化財保存学[彫刻] 技術職員

本郷 孝衣 (HONGO TAKAE)
立正大学仏教文化財修復研究・実習室
特別研究員
／大正大学仏教学部非常勤講師

本橋 浩介 (MOTOHASHI KOSUKE)
佐倉市教育委員会文化課

吉田 朝子 (YOSHIDA ASAKO)
近現代日本彫刻史研究者